

三年後の選択

名古屋市立振甫中学校3年 重松 若奈

平成から令和になった事をつい最近の事のように感じている人は少なくないだろう。令和になってから三年がたつ。あの頃、まさか三年後世界を揺らす戦争が起こるとは誰も予想していなかった。

私は今年で十五歳だ。後三年で十八歳になり、選挙権を持つ。私達が誰を選ぶかによって日本の未来は大きく変わる。子どもを育てやすい社会にするのか、自然災害や他国から国を守る力を高めていくのか、私達の一票がこれからの日本を左右することになる。十八歳の時にそれだけ難しい判断を迫られる。たった三年で私は判断できるのだろうか。私達はこの三年間で日本の事世界全体の事を考えることのできる多くの知識が必要となるのだ。

私は誰もが住みやすい日本であって欲しい。ただ、それを実現するには、そして、国を作っていくには、お金が必要だ。国のお金の集め方は税金という形だ。はたして今、国の予算は足りているのだろうか。令和四年度一般会計予算を調べると五十%以上を公債、つまり国民から「借金をしている」状態になっていた。借金は今後どうなっていくのだろうか。色々な疑問が沸いてきた。疑問を解くには今の税金のしくみを理解することが必要だと感じた。

以前公民の授業で税金は公平と公正（平等）のしくみから成り立っていると教わった。

公平の考えに基づいた税には、「所得税」などがあり、これらの税は納める人の収入や家族の人数などの状況によって税金の金額が変わってくる。公正（平等）に基づいた税には「消費税」などがある。これは年齢や収入などに関係なく誰もが同じ税率で税金を納めるものである。

今年の選挙で、公正（平等）な税金の代表格である消費税をなくしていこうという意見を聞いた。片方のしくみだけで国民は本当に公平公正感を感じられるのだろうか。片方のしくみだけで予算は足り、借金は解消されていくのだろうか。税金を減らす公約は、たくさん聞いたが、足りない部分の補い方を提案する人は少なかった気がする。

これからの日本をどうしていくのかにも、色々な考えや方法がある。意見を自由に発言できるのも、日本の良いところだ。その複数ある意見の中から大切な物を選んでいくのが私達なのだ。私が未来の日本を動かす国民の代表者を選ぶ要素として税金の仕組みや使い方の考え方は大きな部分を占めるものになるような気がする。

後3年、「日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給」される教科書で勉強させていただこう。